

2007年度(平成19年度)第1回理事会記録

(この理事会は引き継ぎの意味も込め、次期役員予定者の陪席のもとでおこなわれた。)

日時：2007年(平成19年)2月10日(土)14:00~16:25

場所：アルカディア市ヶ谷7階「妙高」

出席者：廣川信隆(理事長)、河田光博、澤田 元、柴田洋三郎、高田邦昭(以上、常務理事)、石村和敬、井出吉信、内山安男、大野伸一、近藤尚武、塩田浩平、菅沼龍夫、高野吉郎、竹内義喜、藤本豊土、脇田 稔(以上、理事)、仙波恵美子、中河志朗(以上、監事)、依藤 宏(常任幹事)、

陪席者：辰巳治之、伊藤恒敏、岡部繁男、牛木辰男、坂井建雄、井関尚一(以上、次期理事予定者)、天野恵子、川村知子(以上、口腔保健協会)

欠席者：杉浦康夫(理事)、山田仁三、渡辺雅彦(以上、次期監事予定者)

I. 理事長挨拶

参集頂いた方々への感謝の言葉に始まり、近年の医学教育、研究環境の問題点を指摘し、好ましい方向に向いているのではないことを述べた。この状況を切り開くには解剖学会会員がサイエンスとしての実力をつけ、それを基に発言していかねばならないことを強調した。また、研究のボトムアップのために学術会議に「形態・細胞生物医科学分科会」を作り、これをもとにシンポジウムなどをおこなってゆくことを紹介した。ついで、世界的に解剖学を見渡すと、モデルとなるような国は存在せず、日本がリーダーシップをとって発展させて行かねばならないことを指摘した。最後に今期の常務理事、理事の先生方への感謝と新しい理事会への期待を述べて挨拶を終えた。

II. 議事録署名人の選任

議事録署名人として菅沼龍夫、脇田 稔両理事が選任された。

III. 会議記録の確認

2006年度(平成18年度)第2回理事会記録、同摘録、同議事録(案)

2006年度(平成18年度)第3回理事会(E-メールによる開催)記録、同摘録、同議事録(案)

III. 報告事項

1. 庶務報告(高田庶務担当理事)

(1) 2006年度(平成18年度)第3回理事会(E-メールによる)開催について

標記会議の内容、結果について、改めて報告、確認がおこなわれた。

(2) 解剖学用語改訂13版編集状況

坂井建雄解剖学用語委員会委員長より資料をもとに標記編集の経緯・進行状況につ

いて、説明がおこなわれた。

(3) 日本学術会議分科会（この項は廣川理事長よりの報告）

日本学術会議基礎医学委員会 形態・細胞生物医科学分科会（第20期 第2回）の委員構成、議事に関し報告がおこなわれた。なお、この分科会は従来の研連に相当し、ボトムアップの学会員の意見を反映させるものとして設置された。細胞生物学分科会と連携しながら、シンポジウム等の企画を進めていくとのことである。

(4) 献体実務担当者研修会について

第24回の標記研修会について報告がおこなわれた。なお、これに関連して献体に関連する法的な問題について、曖昧な点が残されているので、次期理事会において、検討をお願いしたいとの要望が述べられた。

(5) 平成19・20年度役員選出選挙結果

標記の選挙結果について選挙管理委員会の報告書をもとに報告がおこなわれた。

(6) 教育委員会答申

教育委員会曾爾 彊委員長より提出の、かねて諮問のおこなわれていた「医学・歯学教育人体解剖実習の必要性」について報告がおこなわれた。

(7) 各種委員会報告

5委員会よりの活動報告が紹介された。

(8) 学会事務マニュアルの整備について

従来、解剖学会には事務処理に関するマニュアルがなかったもので、今回整備したことが報告された。

(9) 総会・評議員会の案内と委任状について

標記の発送報告とともに委任状の提出に関し協力が要請された。

(10) その他

①事務局の解剖学会担当者の変更：事務局天野氏より、担当が古川氏から川村氏に変更になったことが報告された。

2. 編集報告（柴田編集担当理事）

(1) 解剖学会雑誌及びA S I 刊行報告

両誌の第81巻4号が順調に刊行された旨、報告がなされた。

(2) 平成19年度科学研究費（研究成果公開促進費）公募説明会報告（この項は高田理事よりの報告）

A S I が関係する標記の説明会について報告がおこなわれた。

(3) 平成19年度科学研究費（研究成果公開促進費）申請について

A S I について申請をおこなったことが報告された。

(4) 科学研究費補助金「研究成果公開促進費」の執行に関する説明会について（この項は高田理事よりの報告）

科学研究費補助金の研究成果公開促進費が適正に執行されているかをみるために、

財務省がおこなった調査をうけて、学術振興会において標記説明会がおこなわれた。要点としては平成 19 年度は本補助金の総額は大幅な減額になること、学会の経理事務、監査体制も審査対象にすること、競争入札を徹底することなどである。

(5) John Wiley & Sons 社による Blackwell 社の買収について

ASI の編集を委託している Blackwell 社が John Wiley & Sons 社に買収された。ASI の契約は継続されるとのことであるが、今後については問い合わせ中である。

(6) ASI 編集体制について

山科正平 ASI 編集委員会委員長より、いままで成文化された規定のなかった委員長および委員の交代・任期等に関する私案が提出された。この件に関しては解剖誌の編集委員会との関係も含めて次期理事会への申し送り事項とすることが報告された。

3. 企画・渉外報告（河田企画・渉外担当理事）

(1) 平成 18 年度日本解剖学会奨励賞

牛木辰男選考委員会委員長よりの報告書をもとに報告がおこなわれた。応募者 8 名のうち、3 名を受賞候補者に決定したこと、理事会への申し送り事項などが紹介された。

(2) 平成 18 年度日本解剖学会解剖組織技術士功労賞

2 名の候補者について審査がおこなわれ、適格と判断された。

(3) 第 111 回日本解剖学会総会・全国学術集会報告

標記総会・集会の結果報告がおこなわれ、盛会裡に終了したことが紹介された。

(4) 第 112 回日本解剖学会総会・全国学術集会準備状況報告

標記の準備状況について報告がおこなわれた。

(5) 平成 18 年度解剖組織技術士資格審査報告

標記審査委員会佐々木順造委員長より二級解剖技術士に応募のあった 1 名の候補者について合格と判定した旨、報告があったことが紹介された。

(6) APICA について

2008 年 5 月 16～19 日にイランのテヘランにおいて開催される。

(7) 生物科学学会連合について

活動状況および事務委託会社の変更等について報告があった。

4. 会計報告（澤田会計担当理事）

(1) 第 111 回日本解剖学会総会・全国学術集会収支報告

収支決算書が提出、報告された。

(2) 支部学術集会収支報告

各支部からの報告書が提出され、報告がおこなわれた。

(3) 平成 18 年度決算書概要報告

標記について資料をもとに報告がおこなわれた。

IV. 審議事項

1. 平成 19 年度事業計画案

資料をもとに審議がおこなわれ、承認された。

2. 平成 19 年度予算案

資料をもとに審議がおこなわれ、支出の部の特別事業積立（名簿刊行のための積立金）については予算化していないが、次期理事会で検討するとされ、原案通り承認された。

3. 学会事務委託契約

口腔保健協会との契約について、既に E-メールによる理事会では仮承認されているが、今回改めて審議がおこなわれ、正式承認とされた。

4. 永年会員の推薦

推薦候補者一覧が提示され、承認された。なお、終身会費の納入、使用法については公認会計士の指摘もあり、今後の検討課題とするよう次期理事会に申し送りすることになった。

5. 2010 年度（平成 22 年度）総会・全国学術集会開催校について

岩手医科大学医学部佐藤洋一教授、人見次郎教授より、開催希望の書面が寄せられ、審議の結果承認された。

6. 申請による学術評議員審査

先に郵送された資料をもとに投票により判定がおこなわれた。投票に先立ち、近年申請件数が多いが、無制限に学術評議員数を増やすのは好ましくなく、原則助教授以上としてはどうかとの論議があった。理事による投票がおこなわれ、6名の候補者について資格有りとは判定された。

7. ASI 超過ページについて

ASI の投稿論文数および長文論文の増加により、Blackwell との契約ページ数を超過してしまい、追加料金 19 万円の請求が届いた。審議の結果、支払いは承認されることになった。また、この件に関連してオンライン投稿システムによる ASI の投稿論文数の増加への対処法および ASI の電子ジャーナル化は次期理事会への申し送り事項とすることが決定された。

8. 次期理事会への申し送り事項

執行部作成の標記申し送り事項が提示され、逐次説明の後、承認された。

9. 次回理事会、支部長会の日程について

標記案が提示され、承認された。

上記の 2007 年度（平成 19 年度）第 1 回理事会の議決および確認事項を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人はここに記名押印する。

2007 年（平成 19 年） 月 日

社団法人 日本解剖学会

議長

署名人

署名人